

みらいん

「みらいん」は、
震災からの復興に向けて
歩むまち・仙台の“ひと”と“地域”の
今を結ぶ情報紙です。

たいはく

第 16 号



◀ 満面の笑みで自治会設立当初からの思い出を振り返る飯塚さん

今月の
ひと

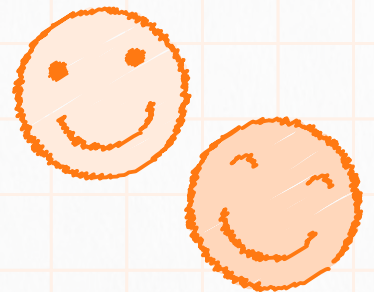
仮設住宅にお住まいの方のために奮闘中

あすと長町仮設住宅自治会長

新しい仲間と共に、楽しく住みやすい住環境を

あすと長町仮設住宅に自治会が誕生してから、3月11日で丸1年になります。初代自治会長を務める飯塚正広さんは、震災前は岩沼市に住んでいましたが、東日本大震災で自宅が半壊。更にその後の余震で建物全体が傾いてしまったため仕事場に近い仙台市内の仮設住宅へ、家族と共に移り住んできました。

「知り合いがまったくいない中での移住は、正直とても不安でしたが、自分から積極的に話しかけることで、少しずつ“仲間”が増えていきました」仲間同士の交流は、やがて出身地や世代などの垣根を越えどんどん広がりあすと長町仮設住宅独自の新たなコミュニティを形成。自治会設立へつなかりました。現在は「皆で話し合い、住環境を良くするために努力しています」と話す飯塚さん。その甲斐あって、仮設住宅で発生していた些細なトラブルは減少。自然と挨拶が飛び交い、住んでいる人同士の笑顔が絶えない、心地よい住宅地になりつつあります。自治会発足一周年となる今年の3月11日には、昨年も行った追悼集会が開催されます。飯塚さんは「震災は不幸な出来事でしたが、私たちが繋がるきっかけにもなりました。それらを忘れないためにも、追悼集会を恒例行事として続けていきたい」と語ります。



2013

3月

生活について

Q 疲れた時のリラックス方法は？

- 1位 寝る・横になる **13人**
- 2位 お風呂・温泉 **11人**
- 3位 音楽を聴く・歌う **10人**

●部屋の中をきれいにし、気持ちの入れ替えを試みる。混まない時間を見計らって、電車に乗る(70代女性／プレハブ仮設住宅) ●無心になること(60代男性／プレハブ仮設住宅) ●集会所にお茶を飲みに行くこと(60代女性／プレハブ仮設住宅) ●仲間と会って、体を動かしながらおしゃべりすること(80代女性／みなし仮設住宅) ●子どもが寝てからのコーヒータイム(40代女性／みなし仮設住宅)

Q 快適な生活を送るために工夫したことは？

- インテリアにこだわったり、音楽を聴いたり、仮設らしくないウキウキした生活を送るようにしてる(50代男性／プレハブ仮設住宅) ●無理はしない。つらい時は泣く。不調の時は休む(30代女性／プレハブ仮設住宅) ●友だちをつくるようにしました。皆に助けをもらえるから快適に暮らしている(60代男性／みなし仮設住宅)

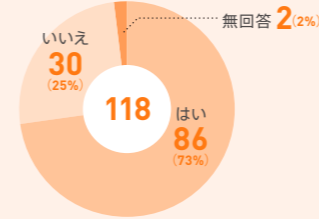
Q 太白区内のおすすめスポットは？

- 長町商店街**
(60代女性／プレハブ仮設住宅)
- FMたいはくラウンジ**
(40代女性／プレハブ仮設住宅)
- 蛸薬師、大年寺山、野草園、広瀬川**
(40代女性／プレハブ仮設住宅)

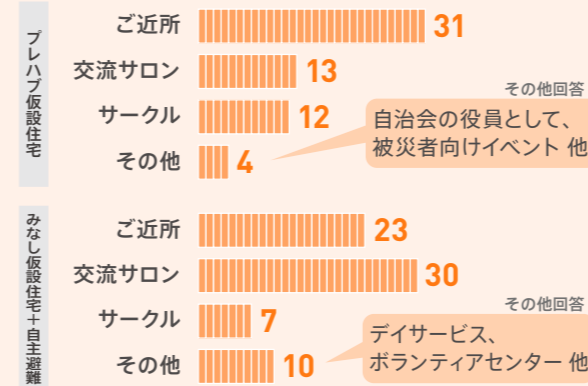


新しい交流について

Q 震災後、新たなお仲間ができましたか？



Q 新しい仲間ができたきっかけは？(複数回答)



Q 新しい仲間の好きなところはどこ？

●被災体験談ができる場所(50代男性／プレハブ仮設住宅) ●趣味を通じて知り合いました。料理教室と一緒に料理をするのがすごく楽しいです(80代男性／プレハブ仮設住宅) ●皆さん同じ境遇の方たちで、お互いに助け合い、励ましあっています(70代女性／みなし仮設住宅) ●どこがいいかなんて答えらんねえ。皆好きだ(60代男性／みなし仮設住宅)

Q あなたの仲間づくりのコツは？

- 1位 イベントに積極的に参加する **12人**
- 2位 自分から進んで声をかける **10人**
- 3位 あいさつをする **6人**

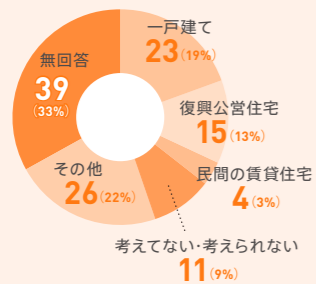
●家にこもらずに外出し、あいさつを交わす(70代女性／プレハブ仮設住宅) ●いい友達ができると、そこから自然と輪が広がっていくと思う(60代男性／みなし仮設住宅)

Q 仲間と会う、サロンに参加するなど交流のための外出頻度は？

平均 **5**日/月

これまでとこれからについて

Q 仮設住宅・自主避難卒業後は、どういう生活を送りたい？



- 別にどこでもいいです。雨風をしのいで、安心して暮らせて、友と話し、たまに食事を一緒に楽しんでいきたい(80代女性／プレハブ仮設住宅)
- 卒業する事自体を考えられなくて、その先のことなどまだまだです(50代女性／プレハブ仮設住宅)
- 以前のように子ども、孫たちと暮らしたい(60代女性／みなし仮設住宅)

Q 震災から2年。今までを振り返ってひとこと

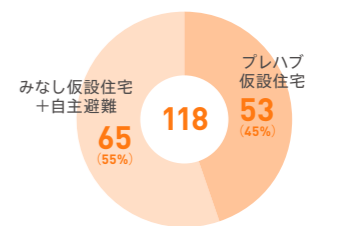
- | プレハブ仮設住宅 | みなし仮設住宅+自主避難 |
|---|--|
| ●あっという間の2年。いろいろあった。まだまだ頑張るぞ！(50代男性) | ●震災から約1年は前を向けなかったが、苦しい中、多くの人に支えられ、自分を変えようと行動しています。多くの方に感謝(60代男性) |
| ●うちは家族全員が無事で、亡くなった方がいる家庭に申し訳ないという気持ちがある(50代女性) | ●日が経つほど、流された家にあった物や思い出とか、戻ってこないものを思い出しては、自分の思い切りの悪さに落ち込んで(70代女性) |
| ●あっという間という感じと、また同じような大きな災害がくるのではないかという不安(30代女性) | ●もとの生活に戻してほしい(40代女性) |
| ●多数の皆さんのご支援をいただき、あすと長町の仮設住宅に入居することができました。ありがとうございました(80代男性) | ●明日のことだけ考えています。過去のことは考えない(50代女性) |
| ●ここにいつまで住めるのか。自分の仕事が続けられるのか。体がもつか。家族の健康が気になります(40代女性) | ●突然に先が見えなくなった(60代男性) |
| ●哀悼(亡くなった家族に対して)と、周りからの支援の2年間でした(50代男性) | ●感謝のひとことに尽きます。津波被災ではないので、仮設住宅に入れるとは夢にも思わなくて、入居した時はほっとしたなあ(80代女性) |

みらいん版

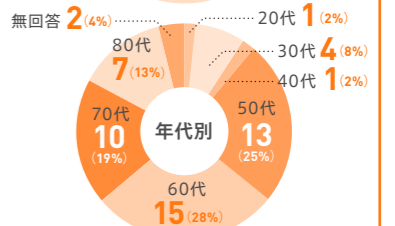
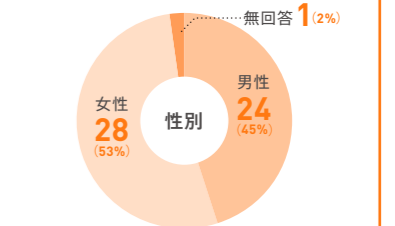
仮設住宅生活白書

三月十一日で震災から丸二年を迎えます。プレハブ仮設住宅、民間借り上げ賃貸住宅(以下、みなし仮設住宅)、自主避難された方(原発事故の影響など)は、この二年でどんな人間関係を育み、生活の知恵を培い、どんな思いを抱えてきたのでしょうか。今回はそんなテーマで実施したアンケートの結果をお届けします。

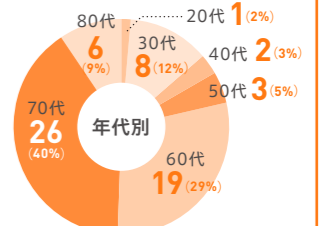
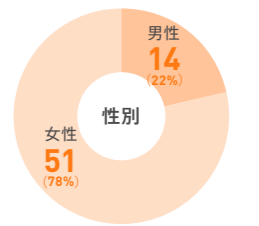
[アンケート回答者]



プレハブ仮設住宅



みなし仮設住宅+自主避難



【調査概要】
実施期間/平成25年1月19日～2月6日
調査手法/訪問調査、または交流サロン等終了時に調査票を配布・回収。118名から回答あり
※グラフのパーセンテージは四捨五入したものです。

みらいん編集部は、毎日読者の皆さんと一緒にさまざまな催しや出来事に参加し、取材しています。その一部をご紹介します。

19日(土) 山元町の皆、元気が〜?
(太白区中央市民センター)



太白区と支えあいセンターが主催する「ヤマモト元気会」が開催されました。2回目ということもあり、「皆さんと会うのが楽しみで、ウキウキしながら来ました」という方も。この日は紙芝居が上演され、紙芝居に合わせて皆で童謡を歌うなどして楽しみました。

19日(土) 新春初笑い〜 (あすと長町仮設住宅)

「正月早々笑ってないね〜」「あら、もう正月じゃないわよ」「笑うのはね、いつだっていいのよ〜」などと口にしなが、観客の皆さんが続々と「新春初笑い演芸会」の会場へと集まって来ました。「腹を抱えて笑えば、いい1年になるんじゃないか」と、あすと長町仮設住宅自治会が企画したものです。落語家の六華亭遊花さんによる東北なまりの落語や岡崎英明さんによる三味線演奏、お笑いコンビ・ニードルの漫才が披露され、観客の皆さんは手を叩いて笑い、楽しいひと時を過ごしました。



22日(火) うれしいサプライズ! (中田市民センター)



支えあいセンターが主催する「達者DEサロン」に地域の方からケーキが差し入れられ、サプライズで1月生まれの方の合同誕生日会が開かれました。「祝ってもらえるなんて思ってなかった。感激した〜」と、うれし涙をこぼすのは1月1日生まれの菅井さん。ケーキに乗った皿を合わせ、「乾杯〜!」と皆で喜びを分かち合いました。

24日(木)

できたてがんづきに舌鼓!
(NTT三神峯社宅)

みやぎ生協が開催しているふれあい喫茶で、生協のスタッフの方が手づくりしたがんづきが振る舞われました。まだ湯気が立ち上るできたてほやほやのがんづきは、「美味しい!」「甘さの加減もちょうどいいわ」と、皆さんから大好評! 中には家族のお土産にとお持ち帰りする方も。スタッフの方がつくり方を教えると、参加者の皆さんは真剣な面持ちでレシピをメモしていました。

28日(月) 白熱!かるた大会 (NTT八木山社宅)



「準備はいいですか? 読みますよ〜」室内に緊迫した空気が流れるのもつかの間。札が読み上げられた瞬間、「はい」と元気な声と共に、絵札へと一斉に手が伸びます。これはみやぎ生協によるふれあい喫茶で開催された、NTT八木山社宅のかるた大会でのひとコマです。参加者の方々は童心に帰り、かるたを楽しみました。

30日(水) 子鬼が鬼退治!?
(富沢市民センター)

節分も近いこの日、支えあいセンター主催の「び〜ちサロン」で豆まきが行われました。支えあいセンターのスタッフの方が扮する鬼の迫力に泣き出してしまう子どももいる中、自作の鬼の面をつけた子どもたちが協力し、皆で鬼をやっつけました。



まちの語り場

集団移転、単独移転、現地再建…。沿岸部にお住まいの方は今、お住まいの再建に向けて地域ごとに話し合いを進めています。このコーナーでは、それぞれの団体に話し合われている内容についてお知らせします。

東六郷移転推進協議会

種次中野地区にお住まいの方が中心となり、浸水区域から六郷地区への集団移転に向けて先駆的に活動しています。

1月21日(月)会議

- 内容
- 地権者代表との顔合わせ
 - 資金計画の再確認

当日の様子

移転候補地の地権者代表との顔合わせで、土地売買の合意に向けた話し合いが行われました。地権者代表からは決済方法など、造成業者を挟まない民間の複数個人との契約という、特殊な案件ならではの問題点が指摘されました。また、移転候補地の坪単価、造成費についての再確認がなされ、金融機関との折衝を図りながら、より具体的な資金計画を立てていくことが協議されました。



▲地権者代表の話に、耳を傾けるメンバー

問い合わせ先: 落合義光 090-4882-3368

定例会議: 随時開催

南蒲生復興部

個々の生活再建と南蒲生の復興を迅速に進める為、独自の復興まちづくり計画を策定し、市への提案を行っています。



▲浄化センターの4階から、海岸堤防工事の様子を見学しました

2月16日(土)避難施設の視察研修会

- 内容
- 南蒲生浄化センター視察
 - 日鐵住金建材敷地内の避難タワー視察
 - 南蒲生町内避難道路の現地検討会

当日の様子

浄化センターでは、重要機器を高層階に設置するなど震災経験を活かした施設設計や、発災時は屋上まで階段で駆け足で避難する、といった防災意識を学びました。続けて視察した避難タワーでは、要望に応じて床材の種類やスロープなどの取り付けを選択できるという施設の説明を受けました。避難道路検討会では、専念寺南側の道路を拡幅することで避難道路に活用できるのではないかなどの意見が上がりました。

問い合わせ先: 代表 芳賀正 090-4042-9464

会合は随時開催

住民説明報告会: 毎月最終日曜日 岡田会館

新浜復興の会

新浜の新たなまちづくりを検討する現地再建グループと、上岡田・久保野地区への集団移転の再建グループが、それぞれの復興を果たすべく活動しています。



▲「記載した要望を活かして欲しい」と昨年5月に続いて2回目となった要望書提出

1月30日(水) 新浜地区の再建に伴う要望書の提出

- 内容
- 行政への要望書提出と要請

当日の様子

遠藤代表より●現行支援制度の更なる充実、特に現地再建における住宅建設の借入金に対する利子相当額の補助●避難道路、施設の早期整備●移転跡地活用における規制緩和と行政主導による利活用促進●集団移転地の円滑な開発に対する配慮、が要望として市側へ伝えられました。市側からは「血の通ったキャッチボールをしながら、町づくりを進めていきたい。久保野への集団移転についても、お金だけでなく皆さんの負担を軽減できるよう実現に向けて取り組んでいく」との返答がありました。

復興の会 問い合わせ先: 代表 遠藤芳広 090-2020-4002

移転再建グループ問い合わせ先: リーダー 瀬戸健介 090-1066-5646

レポート・近所ぶらり

取材したのは...

長町歴史の会

長町にまつわる話を
冊子にまとめて発行

「長町歴史の会」会長の内田貴和さんは、生まれも育ちも太白区長町。愛する地域の歴史について多くの人の関心を持ってもらおうと、月刊の無料地域ミニコミ紙「長町ゆとり」とに隔月で、「ぶらり長町」と題したコラムを連載してきました。

執筆を続け十五年。八十回に及ぶ連載を一冊にまとめ昨年末、連載と同名の冊子「ぶらり長町」を出版しました。A4版六十二ページ。千五百部を刷り、一部は地元小学校などに無償で配りました。

紹介しているのは神社仏閣や史跡、



「長町歴史の会」会長の内田貴和さん。公認会計士の忙しい仕事の合間、地域の歴史を掘り起こしてきました



長町の歴史スポットを紹介する「ぶらり長町」。「長町ゆとり」との人気コーナーが総集編としてまとめられました

街道や橋、鉄道にまつわる話など、さまざま。地元民でさえ知らない逸話が多く、内田さんは「この本を手に、親子で街歩きを楽しんでもらうのが願いです」と語ります。

長町歴史の会は、長町ゆとりと発行元の市民グループ「長町まざらいいん」を母体に生まれました。長町まざらいいんが結成された一九九五年当時は、あすと長町地区での再開発が議論され始めたころ。話し合いが成熟しないまま街並みだけが変わっていくことに危機感を抱いた住民が集ったのが発点でした。その中で内田さんが歴史の会をつくり、現在約二十人が参加しています。

クイズラリーや公開講座で歴史を次の世代へつなぐ

歴史の会は毎年十一月、「長町歴史クイズラリー」を開いています。史クイズラリー」を開いています。地域の子どもたちがクイズに答えながら、地元の歴史スポットをめぐる。既に十五回を重ね、毎回二百人が参加する一大イベントになりました。

「子どもたちが楽しみながら、一つでも街の歴史を覚えてくれたらうれしい。歴史を次代につなぐ『種まき』はこれからも続けます」。会へ他にも定期的に公開講座を開く



歴史の会が生まれるきっかけとなった道標。会の取り組みが実を結び、仙台市博物館裏からもともとあった広瀬橋のたもとへの移設が実現しました

ど、共感の輪を地道に広げています。「どこの街にも歴史があり、人にはふるさとがあります。私はこの街に愛着があり、楽しみながら活動を続けてきました。震災でふるさとを追われ、いまは仮の宿りの人にとっても、いま自分が暮らす地域の歴史を知れば、誇りが持てる。歴史に触れることで、長町のことを好きになつてもらえたらありがたいです」。内田さんらの取り組みもまた長町の歴史となつて、確かに息づいていくことでしょう。

冊子「ぶらり長町」は、1冊1,000円。長町一丁目の協裕堂ブックセンターなど地域のお店で販売中

情報掲示板

仮設住宅やご近所で開催される催し物や相談会、支援団体による支援情報などを紹介します。

「あらためて、今、ふるさとみやぎの復興を考える」シンポジウム

東日本大震災復興・復興支援みやぎ県民センターが、震災から2年を迎え、被災地の現状や復興について考えるシンポジウムを開催します。入場無料。

- 対象 どなたでも参加できます
- 時 3月16日(土) 13:00～16:30
- 場所 仙台国際センター
- 内容 民俗研究家・結城登美雄氏、三陸新報社・渡邊真紀専務取締役、石巻日日新聞社・武内宏之常務取締役、大崎タイムズ社・今村正誼理事編集委員らによる講話
- 問 022-399-6907 東日本大震災復興・復興支援みやぎ県民センター

中小企業者・個人事業者向け二重ローン説明会

震災の被害により、過大な債務を負いながらも被災地域で事業の再生を図ろうとする事業者の方に対して、債権買取などにより再建を支援する、国より設立された震災支援機構による説明会を開催します。説明会終了後、希望する方には個別相談(事前予約可)も行います。

- 対象 東日本大震災で被災した中小企業者、個人事業者
- 時 3月13日(水) 15:30～17:00 ※無料・申込不要
- 場所 エル・ソーラ仙台(青葉区中央1-3-1 エル28階)
- 問 022-214-1003 仙台市地域産業支援課

津波で流出した写真などをお返します

東日本大震災の津波被害地域(宮城野区・若林区)でのがれき処理作業中に回収された写真、アルバム、賞状など思い出の品を展示し、所有者やご家族へお渡します。

- 対象 どなたでも入場できます
- 時 開催中(3月11日(月)まで) 9:00～16:30
- 場所 サンビア仙台(若林区蒲町東10)
- 主催 仙台市、震災復興ボランティア団体 おもいでかえる
- 問 022-214-3109 仙台市消防局減災推進課

支えあいセンターからのお知らせ

借り上げ民間賃貸住宅(以下、みなし仮設)にお住まいの方を支援する支えあいセンター主催の、おすすめサロン・イベント情報です。すべて参加無料。

サロン・イベント名	対象	時	時間	会場	内容	申込	問い合わせ
お茶っこ交流会「季節の寄せ植え」	田子市民センター周辺のみなし仮設にお住まいの方	3月15日(金)	10:00～12:00	田子市民センター	季節の寄せ植えを楽しむつくりましょう(ハンギングバスケット協会)	要(電話)	支えあいセンターみやぎの022-292-0990
寄せ植えサロン	泉区のみなし仮設にお住まいの方(定員20名)	3月15日(金)	10:00～12:00	泉区中央市民センター	寄せ植えで春の花を楽しみましょう	要(電話)	支えあいセンターいずみ022-772-5755
はっと汁づくり	福沢市民センター周辺にお住まいの方	3月19日(火)	13:00～15:00	福沢市民センター	はっと汁をつくらって、皆で楽しく食べましょう	要(電話)	支えあいセンターあおば022-217-7234
第2回「やっべし石巻茶話会」	石巻から避難され、主に太白区内のみなし仮設にお住まいの方	3月23日(土)	10:00～12:00	太白区中央市民センター	同郷茶話会	要(返信はがき)	支えあいセンターたいはく022-217-7234
ぶんぶんさんとあそぼう!!	若林区に避難されている未就学児のいる世帯	3月28日(木)	10:30～12:00	沖野市民センター	ぶんぶんさんによるパントマイム、バルーンアートほか多彩なパフォーマンス	要(返信はがきか電話)	支えあいセンターわかばやし022-781-0559

※その他の交流サロンについては、支えあいセンターからのダイレクトメールでご確認ください

あすと長町仮設住宅イベント(会場はすべて仮設住宅集会所) ※下記以外にもさまざまな催しがあります

日時	イベント	対象	問い合わせ
3月10日(日) 13:30～15:30	復興応援 うたごえ広場	仮設住宅入居者	ユニット① 090-3436-1352(三澤)
3月12日(月) 10:00～12:00	仙台はっとカフェ	仮設住宅入居者	仙台的のちの電話事務局 022-718-4401(はっとカフェ担当)
3月13日(水) 13:30～15:00	心の悩みを聴く おしゃべりとお茶の時間	仮設住宅入居者	仙台傾聴の会 080-3199-4481(森山/火・木・土曜日 9:00～17:00)
3月27日(水) 13:30～15:00	糸あそびの会	仮設住宅入居者	色業工房 090-9072-2160(庄子)
3月19日(火) 13:00～15:30	糸あそびの会	仮設住宅入居者	色業工房 090-9072-2160(庄子)
3月24日(日) 10:00～12:45	簡単リラックス体操と肩もみでカラダをのびほばい伸ばそう!	仮設住宅入居者	Yoga And Music 東北 yogaandmusic@gmail.com

こころ編 薄板一枚

暮れに思ひがけず五針も縫ふ大怪我をしてしまいました。膝小僧が縦にパツクリ割れて骨まで見えたと言者から言はれました。寂かな年末が血に染まりました。

麻酔注射の強烈な痛さの中で先づ頭に浮かんだのは、あの日、この同じ状況で津波に襲はれ、傷口からバイ菌が入って大変な目に遭った人も少なからずあいらしたろうなあとといふこと。それからもうひとつは、還暦を迎える少し前から、毎日ある薬を飲み続けないと死に至る病気を患ってしまった私ですが、大地震で家屋が倒壊したり、家ごと津波に流されて大切な薬や医療器具を紛失してしまった方々も沢山くあらしただせうから、そのあと一体どうしたのかなあといふこと。

地球は生きてゐるとは云へ、あのやうな地殻変動さへなかったなら、今日も平穩無事な日常が続いてゐたわけですが、でも考へてみますと、実に現実には危なっかしく、荒海に笹の葉のごとく浮かぶ小舟が、薄い底板一枚で辛うじて助かっているのと同じに思へます。生と死は分けられないのですね。紙の裏表のやうにいつもピツタリとくっついてゐるのです。

徳照寺 住職 佐藤和丸

佐藤和丸 (さとう かずまる)

若林区日辺の浄土真宗大谷派・徳照寺住職。情報誌への執筆や居酒屋での説法会などを行う、ユニークな人柄と行動力の持ち主。

クロスワードパズル

出題
石田竹久

こたえ

A	B	C	D
---	---	---	---

1	2	3	4	5
6	7	8	A	
		9		
	10	C	11	12
13		14	15	
	16		17	B
18				
D				

タテのカギ

- ①4月1日～6月30日、仙台・宮城観光キャンペーンが開催されます。キャッチフレーズは「○○○咲きたび伊達な旅」
- ②青葉区の小松島にある「瞑想の○○」は樹齢600年以上
- ③凸の反対
- ④○○○と実益を兼ねる
- ⑤ずんだ餅に使われることもある、香りと味わいのよい仙台ちゃ○○
- ⑥店のレジで読み取る、バー○○○
- ⑦オリンピックの旗は、○○○旗
- ⑧愛宕神社があり、広瀬川や市街地を一望できる愛宕○○
- ⑨船で人や荷物などを対岸に渡す所。かつては広瀬川にもありました
- ⑩仙台管区気象台によると、仙台市の○○○○気温は100年あたり2.3℃上昇と、他の大都市同様のヒートアイランド現象が見られます
- ⑪米が田なら、野菜などは?
- ⑫しろがねといえば銀、くろがねといえば?
- ⑬○○を食うとは、損をこうむること

ヨコのカギ

- ①願いごとなどを書いて神社に奉納する絵の額
- ②気仙沼市に属する、東北地方最大の島
- ③卒業式、入学式、学芸会などは、○○○○行事
- ④宮城野区にあるみやぎ産業交流センター。愛称は、○○メッセみやぎ
- ⑤仙台市立の小・中学校で年度末まで取り組む「ふるさと復興プロジェクト」。児童生徒が登校時の○○拾いを行なったりします
- ⑥団体が宿泊するとき、いくつかの宿に振り分けること
- ⑦海岸に沿った平らな陸地
- ⑧川崎町、蔵王町、白石市、丸森町の県内4エリアで、3月15日まで続くイベントは、「三日月○○○○団 政宗の隠し財宝」
- ⑨400年ほど続く太白区の柳生○○。柳生小学校の卒業証書にも使用されています
- ⑩仙台市出身の土井晩翠は、青葉城や会津若松城を歩いて、『荒城の○○』を作詞しました
- ⑪お彼岸に墓前に供えられる○○○○○。仙台市近辺特有の、木材を使った造花です

前回のこたえ

A オ B ン C セ D ン

でした。

1	2	3	4	5
ユ	キ	オ	オ	カ
6	ケ	7	ウ	ミ
ム	ク	ン	シ	10
11	12	ヤ	13	14
	オ	15	ウ	ン
16	ウ	17	セ	18
メ	シ	カ	マ	ン

編集後記

今年に入ってから苦難続き。愛犬の大病に始まり、インフルエンザ発症やトイレの電球の球切れ。おまけにタクシーにつっこまれる交通事故被害も。神様、厄年は終わったはずでは?(さいとう)

本棚を整理しました。読まなくなった本を売りに出かけた先で、なんとタイヤがパンク。本を売ったお金はすべて、ものの10分と経たずにタイヤ交換代へと化けたのでした。とほほ…。(あつみ)

●●●● お住まいを移転される方へ ●●●●

お住まいを移転されると、移転先に「みらいん」が届かなくなる可能性があります。引越後も引き続き購読を希望される方は、編集部までご一報ください。

宛 先:〒984-0011 仙台市若林区六丁の目西町2-12 「みらいん」編集部
TEL: 022-390-5755
FAX: 022-390-5756 e-mail: kawara@mmmm.or.jp